

A-6: URA組織・人材・役割

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 13:50 - 15:20 B202(2階)

ポスト「研究大学強化促進事業」時代のURA組織運営

グローバル化が進む中、我が国の研究力は相対的に低下傾向にあり、大学での研究体制や研究環境の改善、研究マネジメント改革などによる国際競争力の向上が喫緊の課題となっている。このような状況を踏まえ、文部科学省は「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整備事業」を2011年度から開始した。この事業は、全国的なURA組織構築のトリガーとなり、スキル標準の策定や研修・教育プログラムの整備などが行われた。引き続き、文科省で「研究大学強化促進事業」が2013年度から実施され、URA人材確保や研究環境整備などが進展した。一方、「URAを育成・確保するシステムの整備事業」はすでに終了しており、「研究大学強化促進事業」は、ほぼ4年後に事業が終了し、以後は各大学での自主的なURA組織運営が求められている。

そこで、本セッションではポスト「研究大学強化促進事業」に焦点を絞り、それぞれのURA組織が「どのような価値」を「どなたへ」提供すべきかに関して、特にビジネス化(有償化)の観点から整理を試みる。

まず、第1部で(1)国の補助金などに依存せずURA組織をすでに自立運営している大学、(2)URA機能を有償で提供する大学、および(3)URA機能を有償で提供する企業の代表として、それぞれ金沢大学、新潟大学、および株式会社早稲田大学アカデミックソリューションから講演者を招き、各組織での運営やビジネスモデルの実例を紹介していただく。また、第2部では、研究者・大学を取り巻く環境を踏まえ、「研究大学強化促進事業」のURA組織像と今後の展開について発展的な意見交換を行う予定である。

なお、本セッションは、URA配置機関内の視点からその価値を取扱う大阪大学主催セッション「URAが生み出す価値とは」(9月4日 10:40~12:10 A-5)と相補関係にある。両セッションの参加を通じ理解を深めることができる。

オーガナイザー

馬場 忠:筑波大学 URA研究戦略室・生命環境系
室長・教授・学長特別補佐



東京教育大学卒業後に、筑波大学大学院で博士号取得。その後、日本大学松戸歯学部助手、筑波大学講師、助教授を経て1998年より教授。専門は、生殖発生生物学。途中、農林水産省食品総合研究所研究員、厚生省国立予防衛生研究所協力研究員、オクラホマ医学研究所研究員、ペンシルバニア大学医学部客員教授。趣味は、ヨット、サッカー、韓国ドラマ、芸術鑑賞、将棋、ショッピングモールめぐり。

加藤 英之:
筑波大学 URA研究戦略推進室 副室長・チーフ



1992年素粒子論で理学博士を取得(首都大学東京)、特別研究員PD(東京大学)。1994年より理化学研究所にて脳の情報処理の研究を始める。2002年よりニューヨーク大学で神経回路の数理的研究を行う。2005年に帰国し理化学研究所BSI 副研究室長を経て、2007年にBSIトヨタ連携センターで研究室を立ち上げ、脳活動の精密計測に基づく脳型情報処理手法(AI)の開発を行う。2012年より現職。

新道 真代:
筑波大学 URA研究戦略推進室 チーフ



筑波大学、東京大学を経て、総合研究大学大学院遺伝学専攻にて博士号(理学)を取得。専門は発生生物学。博士研究員、経営コンサルティング、ベンチャーキャピタル、バイオベンチャーでの勤務を経て現職。ブランディング、マーケティング、出版(e-book含む)、webシステム開発、動画制作、各種イベントの企画・実施に携わる間に起業から廃業まで経験する。

講演者

**神谷 卓郎:株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
社会連携企画部教育研究コンサルティングチーム チームリーダー**

早稲田大学政治経済学部政治学科 卒業、中小企業診断士(経済産業大臣登録) 2008年に株式会社早稲田大学アカデミックソリューションの前身に入社以来、研究教育活動にかかる企画・プロマネ・調査・アウトリーチ支援、起業支援などに従事。この間、JSPSや早稲田大学研究戦略センターへの出向を経験。一橋大学において年1コマ「研究プロデュース」講義実施。主な顧客:早稲田大学、東京女子医科大学、山形大学、文部科学省など。

平井克之:新潟大学 研究企画室 URA



日本郵便にてコンプライアンス、人事、業務企画部門等を経て、2015年10月から現職。プレアワードと研究IRを担当。博士(理学)。

向 智里:金沢大学 事務局 理事・副学長



1981年大阪大学大学院薬学研究科修了(薬学博士)、1986年スタンフォード大学博士研究員、2003年文科省在外研究員(エモリー大学)、金沢大学教授、学部長、学長補佐を経て、2014年より理事・副学長(総括改革・研究・企画評価担当)。金沢大学先端科学イノベーション推進機構長としてURAと共に活動。